

神奈川県内水面養殖業実態調査

城 条 義 興 西 原 隆 通
村 山 隆 夫

本県の内水面養殖業は、工場排水、都市排水、農薬等の著しい影響を受け、とりまく環境要因は年々悪化している。

一方同様な状況下にある河川湖沼においても魚族資源維持に困難をきたしており、河川湖沼にリクリエーションの場を求めている一般遊漁者が簡易に釣が出来る“人工的釣場”(釣堀等)へと移行し、内水面養殖業自体にも、これに対応する姿勢が伺える。

このため、釣堀経営を含めて、今後の内水面養殖業の経営並びに技術指導の資料とするため、本年度から、逐次経営実態を調査することを計画、本年度は、とりあえずに経営体を無策意に抽出、調査し、結果を、ここにとりまとめた。

現在、県下の内水面養殖業経営体は、神奈川県内水面養殖業者協議会(昭和38年3月設立、任意団体、会長中嶋角治)に加入している43経営体以外に、約20経営体程あると思われるが、調査は、同協議会の協力を得て、傘下の経営体から選定し、昭和43年度の経営状況を中心に、淡水魚増殖場場員が面接聞取によって行なった。

調 査 結 果

経営概要

調査は、実名をもつて公表しない約束のもとに実施したため、記号をもつて整理した。創業の最も古いものは、O-Sの昭和9年であるが、多くは、ここ過去10年以内であるが、中にはY-HとA-Oの2経営体は昭和44年度に事業開始している。資本金、出資金については、大手電鉄会社が、経営しているA-Xを除けば、850～5000千円、平均4308千円である。経営形態は、個人が7、組合が4(内漁業生産組合3、任意団体1)、会社が1であり、個人経営体が多い。また、専兼別にみると専業7、第1種、第2種兼業が各2で、専業が半数以上である。池の所有状況は、養魚池は10経営体をもっており、平均1経営体当たり76面3695 m^2 、釣池は、8経営体をもっていて、1経営体当たり28面12935 m^2 である。T-Hが釣池を204面96000 m^2 と、大きく所有しているが、これは河川をそのまま釣場に利用しているためである。水源は、地下水にたよっているもの6、河川水4、湧水1、地下水と湧水を使用しているもの1である。水源水利用権については、河川水を利用している4経営体の内、2経営体をもっており、T-Hが年額120千円、H-Mが3ヶ年で1千円、河川管理者である県へおさめている。

表 1 経営規模並びに経営概要

項目 経営体	創業年月	資本金 出資額	経営形態			専 業 別 経 営 状 況						池 所 有 状 況								水 源 L	水 庫 水利権 SEC
						専 業	兼 業				養 魚 池		釣 堀		釣堀と養魚池の兼用池		そ の 他				
			業	第1種	業種名		第2種	業種名	面	㎡	面	㎡	面	㎡	面	㎡					
1	K-O	昭和40年9月	4,000	○		○						2	232	3	629	—	—	1	66	地下水27L	—
2	T-H	" 40年4月	2,785	○		○						—	—	204	96,000	—	—	9	84	河川水	あり
3	Y-H	" 44年7月	2,800	○		○						16	602	3	1036	—	—	—	—	地下水14L	—
4	O-S	" 9年	不明	○		○		農 業				23	1906	1	99	—	—	12	70	地下水15~16L 湧水5~6L	—
5	O-H	" 11年	不明	○		○		農 業				3	4521	—	—	—	—	2	—	地下水7HP、水中 5HPニューガル	—
6	O-O	" 33年5月	20,000	○		○						7	28135	—	—	—	—	—	—	地下水1.5L	—
7	Y-S	" 37年6月	1,000	○					○	不動産業		4	596	2	397	—	—	—	—	地下水3PS	—
8	A-N	" 41年6月	5,000	○		○						1	99	1	132	—	—	7	99	河川水10L	なし
9	H-M	" 41年3月	850	○					○	商業		6	107	—	—	—	—	2	7	河川水	あり
10	A-Y	" 34年7月	1,140	○		○						3	80	—	—	2	50	3	90	河川水	なし
11	A-O	" 43年3月	5,000			○			○	電鉄		—	—	7	5019	3	534	—	—	地下水	—
12	S-N	" 33年3月	12,000	○		○						11	695	3	165	—	—	1	425	湧水28L	—

労 働 力

従事者については、1経営体当り、家族労働力（個人経営のみ）男1人、女0.8人で1ヶ月平均男7,375.0円、女4,750.0円を経費としておとしている。また、常時雇用者は、1経営体当り男2.1人、女0.7人で、1ヶ月平均男5,414.2円、女2,791.6円を支払っている。その他臨時雇用している経営体は7あり、Y-H及びS-Nは、長期間雇用しており、臨時労働力への依存度が高い。

表 2 従 事 者 並 び に 賃 金

項目 経営体		従 事 者				1人1ヶ月当り平均賃金				最 高 賃 金				最 低 賃 金				臨 時 雇 用
		家 族		雇 用		家 族		雇 用		家 族		雇 用		家 族		雇 用		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1	K-O	1	1	1	1	7.0	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年間 延 4 人 2,000円/日
2	T-H	—	—	7 (組合員)	5	—	—	6.8	4.3	—	—	7.3	5.2	—	—	6.0	3.0	2ヶ月未満 男1800～2200円/日 女1000～1300円/日
3	Y-H	1	1	2	—	不明	不明	6.5	—	不明	不明	7.0	不明	不明	不明	6.0	不明	パートタイマー 女性 4人常時確保 1,000円/8時間
4	O-S	1	1	—	—	7.5	7.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	O-H	2	1	1	1	不明	不明	3.0	2.0	不明	不明	—	—	不明	不明	—	—	
6	O-O	—	—	4 (組合員)	0	—	—	4.5	—	—	—	5.1	—	—	—	4.2	—	3ヶ月未満 1,800円/日 3人雇用
7	Y-S	—	2	—	—	—	—	—	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	
8	A-N	1	—	—	—	不明	—	—	—	不明	—	不明	—	不明	—	不明	—	
9	H-M	—	—	5 (組合員)	1	—	—	不明	1.2	—	—	不明	1.5	—	—	不明	1.2	年間延120人雇用 1,000円 兼業しているゴルフ場からウエイテレスがいそがしい時にてつだいくる。
10	A-Y	—	—	3	—	—	—	7.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11	A-O	—	—	2	1	—	—	5.0	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1ヶ月間日曜日1人雇用 1,000円
12	S-N	1	—	1	1	不明	—	5.0	5.0	—	—	5.5	5.5	—	—	4.0	4.0	6ヶ月未満2人雇用 1,300円/日

池利用状況

池の利用状況は表3のとおりであり、特に産卵池は所有していない。親魚池は1経営体、ふ化池は2経営体（平均4面34 m^2 ）、稚魚池は2経営体（平均2面28 m^2 ）、養成池は8経営体（平均7面4,035 m^2 ）、釣池は9経営体（平均25.1面1,503 m^2 ）、その他畜養池、販売池等は9経営体（平均4.4面1068 m^2 ）が所有しており、釣池にウエイトがかなりある。

表 3 池 所 有 状 況

経営体	項目	親 魚 池			ふ 化 池			稚 魚 池			養 成 池			釣 池			そ の 他		
		面	m^2	使用内容	面	m^2	使用内容	面	m^2	使用内容	面	m^2	使用内容	面	m^2	使用内容	面	m^2	使用内容
1	K-O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	232	50 m^2 アコイ、イロコイ 50 m^2 キンギョ	3	629	25 m^2 アコイ 21 m^2 キンギョ、53 m^2 フナ	1	66	イ ケ ス
2	T-H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	204	96,000	ニ シ マ ス	9	84	イ ケ ス
3	Y-H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	602	80 m^2 アコイ、イロコイ 15 m^2 ニシマス 4 m^2 キンギョ 1 m^2 その他	3	1036	47 m^2 ニシマス 47 m^2 フナ 4 m^2 その他	-	-	-
4	O-S	-	-	-	6	48	キンギョ	3	36	ニシマス	14	1,821	36 m^2 アコイ 64 m^2 アユ	1	99	ニ シ マ ス	12	70 (金庫)	70 m^2 イロコイ 30 m^2 キンギョ
5	O-H	3	8085	35 m^2 フナ、イロコイ 65 m^2 キンギョ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	397	キンギョ、イロコイ
6	O-O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	28135	16 m^2 アコイ、イロコイ 8 m^2 フナ	-	-	-	-	-	-
7	Y-S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	596	25 m^2 アコイ 75 m^2 イロコイ	2	397	マ ゴ イ	-	-	-
8	A-N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	99	ニ シ マ ス	1	132	ニ シ マ ス	7	99	マコイ、イロコイ、 キンギョ、ウナギ
9	H-M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	107	ニ シ マ ス	-	-	-	2	67	-
10	A-Y	-	-	-	2	20	ニシマス	1	20	ニシマス	-	-	-	2	50	ニ シ マ ス	3	90 (金庫)	マゴイ、キンギョ、 ニシマス
11	A-U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	5019	76 m^2 フナ 20 m^2 アコイ 4 m^2 キンギョ	3	90 (金庫)	マゴイ、キンギョ
12	S-N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	695	30 m^2 イロコイ 125 m^2 アユ、42 m^2 アユ 5 m^2 ニシマス	3	165	40 m^2 アコイ 64 m^2 ニシマス	1	485 (金庫)	イロコイ、キンギョ

自家生産量

自家生産しているものは、表4のとおり7経営体であり、マゴイ1経営体（4,000尾、240千円）、2経営体（1,800尾 ⊕ 1,000Kg、平均642千円）、キンギョ1経営体（3,000尾、500千円）、ニシマス5経営体（714Kg ⊕ 350千尾、平均482千円）、アユ2経営体（2,620Kg、平均1,518千円）で、7経営体の自家生産量は9729千円で、一経営体当たり1,389千円になる。

表 4 自 家 生 産 量

経営体	項目	マ コ イ		イ ロ コ イ		キ ン キ ヨ		ニ シ マ ス		ア ユ		計	
		数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
1	K-O	-	-	-	-	50 Kg	100	-	-	-	-	50 Kg	100 ^{千円}
2	O-S	-	-	15200 尾	435	3000 尾	500	356 Kg	997	1500	1356	21000 尾 1856 Kg	8288
3	O-O	4000 Kg	2400	1000 Kg	850	-	-	-	-	-	-	5000 Kg	8250
4	A-N	-	-	-	-	-	-	300 Kg	84	-	-	300 Kg	84
5	H-M	-	-	-	-	-	-	1500 Kg	750	-	-	1500 Kg	750
6	A-Y	-	-	-	-	-	-	350000 尾	350	-	-	350000 尾	350
7	S-N	-	-	-	-	-	-	700 Kg	227	1120 Kg	1680	1820 Kg	1907

全体的にみて、最も多いのはアユで、31.2%に当る8036千円で、次いでニジマス24.8%、2408千円、マゴイ24.6%、2400千円、イロゴイ18.2%、1285千円。最も少ないのがキンギョで6.2%に当る600千円である。

養殖種苗

養殖種苗としての購入量は、釣堀業または活魚輸送業が主体である5経営体を除く7経営体が購入している。マゴイは4経営体で、1経営体当たり119千円、イロゴイは4経営体で、1経営体当たり334千円、ニジマスは2経営体で、1経営体当たり165千円、アユ、キンギョ、ウナギについては各1経営体しか購入していない。1経営体で最も多く購入しているのは、O-Oで8680千円、次いでO-Sの1412千円である。前者は、最も単価の高いウナギ種苗(4000円/Kg)に92.2%投下しており、後者はウナギに次いで高いアユ(2255円/Kg)に投下している。7経営体の購入費の合計は114895千円で、O-O一経営体のウナギ購入費が69.6%をしめている。

表 5 養 殖 種 苗 購 入 量

項目 経営体	マゴイ		イロゴイ		キンギョ		ニジマス		アユ		ウナギ		計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
1 O-S	300Kg	180	30000尾	90			66000尾	240	400Kg	902			1412
2 O-H			800Kg	600									600
3 O-O	300Kg	165	500Kg	375	30000尾	140					30000尾	140	8680
4 Y-S	3000尾	132	30000尾	270									402
5 A-N	500尾	05											05
6 H-M							200Kg	90					90
7 S-N							300Kg	165	40000尾	140			305

販売魚類購入量

購入即販売のための購入量については、ウナギ養殖に主体をおいているO-H、O-Oの2経営体を除く10経営体が、607737千円、1経営体当たり6077千円購入している。最も多量に購入しているのがT-Hで、全体の41.1%に当る25000千円であり、これはT-Hが大規模に行なっているニジマス釣の仕入量(100000Kg)である。次いでは活魚輸送業を主体としているA-Yで全体の2.3%に当る13970千円であり、魚種はマゴイ、イロゴイ、ニジマス、アユ、ウナギ、フナ、ヤマメ等と多種に渡っているが、ニジマスが46200Kg、11229千円と80.3%をしめ、比重が高い。全体的にみると、ニジマスが7経営体で162300Kg、42225千円と(1経営体当たり23186Kg、6032千円)と69.5%をしめ、次いでマゴイが8経営体で23333Kg、1920千円(1経営体当たり2916Kg、2400千円)で31.5%をしめている。なお、フナを購入しているK-O、Y-S、A-Oの3経営体は、釣堀用として購入したものであり、広義に販売用と解釈し、ここに入れた。

表 6 販 売 の た め の 購 入 量

品名	イロゴイ		キモリ		ミナ		アキユ		ウチキ		ウチイ		キマン		合計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
1. 小麦	kg	320	kg	450	kg	500	kg	300	kg	150	kg	420	kg	100	1,340
2. 大麦	kg	200	kg	250	kg	100	kg	250	kg	300	kg	100	kg	250	2,500
3. 小麦	kg	200	kg	250	kg	100	kg	250	kg	300	kg	100	kg	250	2,500
4. 小麦	kg	300	kg	120	kg	100	kg	300	kg	100	kg	300	kg	100	835
5. 小麦	kg	300	kg	140	kg	200	kg	40	kg	100	kg	300	kg	100	186
6. 小麦	kg	80	kg	272	kg	28	kg	8	kg	170	kg	530	kg	5932	455
7. 小麦	kg	2000	kg	1074	kg	125	kg	4620	kg	11225	kg	400	kg	60	13270
8. 小麦	kg	1700	kg	678	kg	200	kg	1350	kg	81	kg	1000	kg	3300	4259
9. 小麦	kg	1000	kg	1520	kg	50	kg	9000	kg	2040	kg	12000	kg	4080	6725

販売量

販売事業は、フナ釣及びコイ釣業を営業しているA-O以外の11経営体が実施しており、全体で119,788千円に達し、これを一経営体当りにすると10,889.8千円となる。最も多いのがニジマス釣を主業とするT-Hで45,000千円(ニジマス10,000.0Kg)、次いで活魚輸送業のA-Yが18,767千円(ニジマスが79.4%で46,200Kg、14,968千円、次いでマゴイが13.5%で700Kg、2,526千円、その他アユ、イロゴイ、ヤマメ、フナ、ウナギ等)で、S-NとO-Oも16,000千円以上売上げしている。魚類別にみると、ニジマスが7経営体で165,450Kg、71,380千円(1経営体当り23,636Kg、10,197千円)で59.7%、ウナギが4経営体で28,110Kg、17,898千円(1経営体当り7,027Kg、4,474千円、O-Hと

表 7 販 売 量

No.	品名	イロコイ		キヌキヨ		ニジマツ		アユ		フナ		トラフイ		サメ		合計
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
1	K-O	300 ^{Kg}	180 ^円	250 ^g	1250 ^円	4000 ^円	8000 ^円		10000 ^円	45000 ^円		10000 ^円		300 ^{Kg}	180 ^円	2030
2	T-H							10000 ^{Kg}	45000							45000
3	Y-H	2000 ^{Kg}	4200			10000 ^{Kg}	10000	500 ^g	300				30 ^g	40		5720
4	F-S	300 ^{Kg}	165	300 ^g	450	3000 ^{Kg}	600	500 ^g	165	1500 ^{Kg}	3000					4280
5	O-H			500 ^g	600								2000 ^g	4000		5400
6	F-F	4000 ^{Kg}	2400	1200 ^{Kg}	860								20000	13000		16250
7	Y-S	540 ^{Kg}	432	21000 ^g	2300	1500 ^g	75									2307
8	A-S	100 ^{Kg}	50			200 ^g	15	2000 ^g	900	200 ^{Kg}	560					1525
9	H-M							3000 ^g	1500							1500
10	A-Y	2000 ^{Kg}	2526	200 ^g	210	4680	4620	14968	400 ^{Kg}	800	80 ^g	50	200 ^{Kg}	72		18767
11	S-S	5000 ^{Kg}	120	30 ^g	1162	90000 ^g	13150	8547	800 ^{Kg}	1600					2000 ^g	16409

〇ー〇がほとんどで2経営体で全量の99.6%)で14.9%、次いでマゴイ、キンギョ、イロゴイの順となっている。

餌料

使用している餌料は、表8のとおりである。T-Hは、ニジマス釣堀が主業のため、畜養期間が短く、餌料はあてていない。全体的にみて、ペレット、粉末等配合餌料がほとんどで、数量において37.5%、金額において54.6%をしめている。〇ーS、〇ーH並びに〇ー〇は、沿岸の魚市場が近いので、単価の安いサバを購入し、ウナギ、アユ等の餌料としている。また〇ーHは、副業として営業している肥料製造業に使用する安価な雑ば(魚の頭、尻尾等)等をウナギの餌料としている。

表 8 餌 料 の 所 有 状 況

経営体	餌料名	ペレット	粉末	サバ	雑ば	さなぎ	合計	
1	O-K	数量	500Kg	600Kg			1,200Kg	ペレット } マゴイ、イロゴイ、 粉末 } キンギョ、フナ
		金額	4,277円	3,977円			8,254円	
2	Y-H	数量	2,200Kg				2,200Kg	マゴイ、キンギョ、ニジマス、 フナ、ハヤ
		金額	1,430円				1,430円	
3	O-S	数量	502Kg	1,380Kg	713.5Kg		1,353.5Kg	サバ・アユ 配合-マゴイ、イロゴイ、 キンギョ、ニジマス
		金額	4,017円	1,007円	6,577円		5,667円	
4	O-H	数量		4,000Kg	2,400Kg	1,000Kg	7,400Kg	サバ、雑ば、ウナギ
		金額		4,407円	6,007円	1,007円	11,414円	
5	O-O	数量	3,000Kg	8,000Kg	9,000Kg		10,100Kg	サバ・ウナギ700Kg、マゴイ、 イロゴイ20Kg、粉末-ウナギ ペレット-マゴイ、イロゴイ
		金額	4,087円	9,447円	3,600円		4,952円	
6	Y-S	数量	600Kg	400Kg		100Kg	650Kg	ペレット-マゴイ 400Kg イロゴイ180Kg 粉末、さなぎ-イロゴイ
		金額	4,077円	5,377円		4,277円	4,957円	
7	A-N	数量	800Kg				800Kg	ニジマス
		金額	5,277円				5,277円	
8	H-M	数量	798Kg				798Kg	ニジマス
		金額	5,597円				5,597円	
9	A-Y	数量	720Kg				720Kg	ペレット-ニジマス640Kg マゴイ 80Kg
		金額	5,077円				5,077円	
10	A-O	数量		2,400Kg			2,400Kg	ペレット-マゴイ 480Kg フナ 1,869Kg キンギョ 60Kg
		金額		1,687円			1,687円	
11	S-N	数量	3,360Kg				3,360Kg	ニジマス、マゴイ、イロゴイ、 アユ
		金額	5,647円				5,647円	
合 計		数量	4,408Kg	16,420Kg	9,953.5Kg	1,000Kg	16,104.5Kg	
		金額	3,546円	16,963円	4,265円	1,007円	4,277円	3,611.5円

購入先

●マゴイ

8経営体の購入先は、平均すると県内からは5経営体が購入しており568%、県外は、4経営体が購入しており482%である。

県内の内訳は業者が487%、県淡水魚増殖場が81%である。県外は、長野県から3業者が購入しており306%、群馬県からA-Oが購入しており、平均126%となっている。

表9 マゴイ購入先

経営体	購入先	県内			県外		
		業者	県増殖場	計	長野	群馬	計
1	O-K	100	—	100	—	—	—
2	Y-H	—	—	—	100	—	100
3	O-S	100	—	100	—	—	—
4	Y-S	30	25	55	45	—	45
5	A-N	60	40	100	—	—	—
6	A-Y	—	—	—	—	100	100
7	A-O	100	—	100	—	—	—
8	S-N	—	—	—	100	—	100
平均		487	81	568	306	126	482

●イロゴイ

O-K、A-Oが県内の業者から、O-S、A-N、A-Yがそれぞれ新潟県、東京都、群馬県から購入しており、平均すると、県内383%、県外667%となる。

表10 イロゴイ購入先

経営体	購入先	県内			県外		
		業者	県増殖場	計	新潟	東京	群馬
1	O-K	100	—	100	—	—	—
2	O-S	—	—	—	100	—	—
3	A-N	—	—	—	—	—	—
4	A-Y	—	—	—	—	100	—
5	A-O	100	—	100	—	—	100
6	S-N	—	—	—	100	—	—
平均		383	—	383	333	167	667

●キングヨ

O-K、Y-S、A-Oが県内から、Y-H、A-Nが東京都、S-Nが奈良県、O-Sが東京都と奈良県から半半づつ購入しており、平均すると、県内428%、県外572%となる。

表11 キングヨ購入先

経営体	購入先	県内			県外		
		業者	県増殖場	計	東京	奈良	計
1	O-K	100	—	100	—	—	—
2	Y-H	—	—	—	100	—	100
3	O-S	—	—	—	50	50	100
4	Y-S	100	—	100	—	—	—
5	A-N	—	—	—	100	—	100
6	A-O	100	—	100	—	—	—
7	S-N	—	—	—	—	100	100
平均		428	—	428	357	215	572

●ニジマス

県内だけから購入しているのは、Y-H、A-N、H-Mであり仕入先を県外に限定しているのは、T-Hだけである。平均すると県内53.6%（業者39.9%、県淡水魚増殖場13.7%）、県外46.4%（静岡39.2%、長野7.2%）で県外は静岡県が主力である。

表 12 ニジマス購入先

経営体	購入先	県内			県外		
		業者	県増殖場	計	静岡	長野	計
1	T-H	—	—	—	100	—	100
2	Y-H	85	15	100	—	—	—
3	O-S	—	25	25	75	—	75
4	A-N	82	18	100	—	—	—
5	H-M	83	17	100	—	—	—
6	A-Y	0.5	—	0.5	99.5	—	99.5
7	S-N	29	21	50	—	50	50
平均		39.9	13.7	53.6	39.2	7.2	46.4

●アユ

仕入れている3経営体の仕入先は、O-S、S-Nが県内漁連（海産、琵琶湖産）、A-Yが静岡県である。

●ウナギ

すべて県外からであり、Y-Hは東京都から、A-Yは静岡県からである。

●フナ

O-K、Y-Hは県内と県外から、A-Y、A-Oは県内だけから購入しており、平均すると、県内75.3%、県外24.7%（滋賀6.5%、岡山8%）と県内が高いが、これは県内の生産者からではなく、流通業者からである。

表 13 フナ購入先

経営体	購入先	県内			県外	
		業者	滋賀	岡山	計	
1	O-K	34	66	—	66	%
2	Y-H	67	—	33	33	%
3	A-Y	100	—	—	—	%
4	A-O	100	—	—	—	%
平均		75.3	16.5	8.2	24.7	%

●その他

Y-Hはウグイを長野県から、A-Yはヤマメを県内から購入している。

販売先

●マゴイ

Y-H、O-S、Y-S、S-Nが100%自家販売しており、平均すると、自家販売64.4%、旅館料亭16.3%、養殖業者、釣堀業者、小売業者が各々7.5%、7.3%、4.3%となっている。

表 14 マゴイ販売先

経営体	販売先	自家販売	小売業者	旅館料亭	養殖業者	釣堀業者	計
		%	%	%	%	%	%
1	K-O	66	34	—	—	—	100
2	Y-H	100	—	—	—	—	100
3	O-S	100	—	—	—	—	100
4	O-O	30	—	70	—	—	100
5	Y-S	100	—	—	—	—	100
6	A-N	20	—	—	50	30	100
7	A-Y	1	—	61	10	28	100
8	S-N	100	—	—	—	—	100
平均		64.4	4.3	16.3	7.5	7.3	100

●イロゴイ

K-O、O-S、A-Y、S-Nが
100%自家販売で、平均すると自家
販売64.2%、釣堀業者28.6%、問
屋7.2%である。

表 15 イロゴイ販売先

経営体	販売先	自家販売	釣堀業者	問屋	計
		%	%	%	%
1	K-O	100	—	—	100
2	O-S	100	—	—	100
3	O-H	—	100	—	100
4	O-O	50	—	50	100
5	Y-S	—	100	—	100
6	A-Y	100	—	—	100
7	S-N	100	—	—	100
平均		64.2	28.6	7.2	100

●キンギョ

K-O、Y-H、O-S、Y-S、S-Nがそれぞれ100%自家販売、A-Nが自家販売と釣
堀業に50%づつ、平均すると自家販売91.7%、釣堀業者8.3%である。

●ニジマス

釣堀業を主業とするT-H
Y-H、H-M、S-Nが1
00%自家販売で、平均する
と自家販売69.4%、市場1
2.8%、釣堀業者10.4%、
養殖業者5.8%である。

表 16 ニジマス販売先

経営体	販売先	自家販売	養殖業者	釣堀業者	旅館料亭	市場	計
		%	%	%	%	%	%
1	T-H	100	—	—	—	—	100
2	Y-H	100	—	—	—	—	100
3	O-S	3	—	7	—	90	100
4	A-N	80	—	20	—	—	100
5	H-M	100	—	—	—	—	100
6	A-Y	3	41	46	10	—	100
7	S-N	100	—	—	—	—	100
平均		69.4	5.8	10.4	1.6	12.8	100

●アユ

平均すると自家販売34.3
%、旅館料亭33.3%、市場
3.0%、養殖業者2.4%であ
る。

表 17 アユ販売先

経営体	販売先	自家販売	養殖業者	市場	旅館料亭	計
		%	%	%	%	%
1	O-S	3	7	90	—	100
2	A-Y	—	—	—	100	100
3	S-N	100	—	—	—	100
平均		34.3	2.4	3.0	33.3	100

●ウナギ

Y-Hは自家販売、O-Hは問屋、A-Yは旅館料亭が各々100%であり、O-Oは7:3で市場と旅館料亭である。平均すると旅館料亭、自家販売、問屋、市場の順に32.5%、25.0%、25.0%、17.5%である。

表 18 ウナギ販売先

経営体	販売先	自家販売	問屋	市場	旅館料亭	計
		%	%	%	%	%
1	Y-H	100	—	—	—	100
2	O-H	—	100	—	—	100
3	O-O	—	—	70	30	100
4	A-Y	—	—	—	100	100
平均		25.0	25.0	17.5	32.5	100

●その他

フナは、A-Yが旅館料亭に、ヤマメはA-Yが養殖業者へ、ウグイはY-Hが自家販売している。

釣堀業

観光内水面養殖業ともゆべき、釣堀業の実施状況については、養鰻業を主業とするO-H及びO-Oの2経営体を除く10経営体が実施している。魚種別にみると、コイ釣6、ニジマス釣7、フナ釣3、キンギョ釣2で、3魚種の釣3、2魚種が2、単1魚種5である。

表 19 実施している釣堀魚種

経営体	魚種	コイ	ニジマス	フナ	キンギョ	計
1	K-O	○	—	○	○	3
2	T-H	—	○	—	—	1
3	Y-H	○	○	○	—	3
4	O-S	—	○	—	—	1
5	Y-S	○	—	—	—	1
6	A-N	—	○	—	—	1
7	H-M	—	○	—	—	1
8	A-Y	○	○	—	—	2
9	A-O	○	—	○	○	3
10	S-N	○	○	—	—	2
計		6	7	3	2	18

●コイ

時間釣3、半日又は1日釣1、時間に関係なく、釣った魚を買わせているところ2である。

表 20 コ イ 釣 状 況

経営体	時間	1日釣料金	半日釣料金	1日釣料金	釣魚時間 可	釣魚時間 不可	釣魚重量 販売	釣魚尾数 販売	釣取制	割引制	貸竿の 長さ	貸竿代金	釣餌の 種類	餌の単価
1 K-O	○	1000/時間	2500/半日	3500/1日	○	△	550~700/Kg	○	○	無	2m	無料	鯉	1000/1kg
2 Y-H	○	3000	3000	3000	○	△	800	○	○	無	3.6(2.5kg) 3(1.0)	50/本	鯉	無料
3 Y-S	○	3000	3000	3000	○	△	800	○	○	無	3	無料	鯉	無料
4 A-Y	○	3000	3000	3000	○	△	500~600	○	○	無	3	無料	鯉	無料
5 A-O	○	大人250 小人150	800	800	○	△	750	○	○	無	3.3	餌代合せ 500	鯉	餌代と 込み
6 S-N	○	3000	3000	3000	○	△	750	○	○	無	3	無料	鯉	無料

K-OとY-Sは、釣料金を徴収し、釣ったものは重量販売しており、A-YとS-Nは、釣料金はなく重量販売、Y-HとA-Oは釣取制である。制度が異なるため、一様に比較は出来ないが釣取りの場合は、1時間250~300円、重量販売の場合は、500~800円/Kgで、平均680円/Kg前後である。割引制はないが、貸代を無料としているところ4、餌代無料が3ある。

●ニジマス

T-HとH-Mは1日800円で釣取りであり、その他の5経営体は、1Kg当り500~650円(4経営体が500円で、1経営体は650円)で釣った魚を買上げる制度をとっている。S-Nは原則として、釣って買上げた魚を、加工料をとって料理して食べさせている。割引制をとっているところはないが、竿代が無料にしているところ4、餌代を無料にしているところ5ある。貸代は一本50円、餌のイクラは200円/15gと150円/16g、ズイムシは200円/20尾である。

表 21 ニ ジ マ ス 釣 状 況

経営体	時間	1日釣料金	半日釣料金	1日釣料金	釣魚時間 可	釣魚時間 不可	釣魚重量 販売	釣魚尾数 販売	釣取制	割引制	貸竿の 長さ	貸竿代金	釣餌の 種類	餌の単価
1 T-H	○	800	800	800	○	△	500	○	○	無	4~5m	500/本	イクラ、ズイムシ	1500/1kg
2 Y-H	○	3000	3000	3000	○	△	500	○	○	無	3.6(2.5kg) 3(1.0)	500/本	鯉	無料
3 O-S	○	3000	3000	3000	○	△	500	○	○	無	2	無料	鯉	無料
4 A-N	○	3000	3000	3000	○	△	550	○	○	無	3	500/本	イクラ	1500/1kg
5 H-M	○	800	800	800	○	△	500	○	○	無	3	無料	鯉	無料
6 A-Y	○	3000	3000	3000	○	△	500	○	○	無	3	無料	鯉	無料
7 S-N	○	3000	3000	3000	○	△	650	○	○	無	3	無料	鯉	無料

●フナ

ヘラブナ釣のため、釣をたのしむだけで持帰りはできない。1時間単位で釣が出来るのは、K-OとA-Yで、1時間100円と150円を徴収している。半日釣は250~400円(平均316円)、1日釣は350~600円(平均483円)であるが、K-Oが一般の料金より安いのが

目立つ。割引制は、A-Yがとっており、10人以上は1割引で、さらに1人5Kg以上釣上げた場合はサービス券1枚を出し、このサービス券10枚をもつて、1日無料としている。竿はほとんど持込みで、餌は市販の餌を使用している。

表 22 フ ナ 釣 の 状 況

経営体	時間釣	半日又は1日釣	時間釣料金	半日釣料金	1日釣料金	釣魚持帰可能	釣魚持帰不可能	釣魚重量販売	釣魚地敷販売	釣取制	割引制	貸竿の長さ	貸竿代金	釣餌の種類	餌の単価
1 K-O	○		100 ^円 /時間	250 ^円 /半日	350 ^円 /日		○				無	持込み		持込	
2 Y-H		○		300	500 (昼食つき)		○				〃	3.0 ^円 (2.5 ^円 から3.0 ^円 へ)	50	市販品	50~200 ^円
3 A-Y	○		150	400	600		○				有	3.3 ^円 以上	20	〃	〃

●キンギョ

K-OとA-Oの2経営体をやっており、料金は時間単位となっており、K-OはKg当り1.510円、A-Oは釣取り制である。割引制はとっておらず、竿代は、K-Oは無料で、A-Oは20円/本である。餌は練り餌を使用している。

表 23 キンギョ釣状況

経営体	時間釣	半日又は1日釣	時間釣料金	半日釣料金	1日釣料金	釣魚持帰可能	釣魚持帰不可能	釣魚重量販売	釣魚地敷販売	釣取制	割引制	貸竿の長さ	貸竿代金	釣餌の種類	餌の単価
1 K-O	○		100 ^円 /時間	250 ^円 /半日	300 ^円 /日	○		1.500 ^円 /Kg			無	2 ^m	無料	練り	タンゴ1ヶ10 ^円
2 A-O	○		200			○				○	〃	83	20 ^円 /本	〃	タンゴ1ヶ20 ^円

釣堀利用状況

釣堀を営業している10経営体の内、利用者が食事をすることが可能なところは、5経営体である。

年間の利用状況については、表25のとおりであるが、Y-Hが44年7月からの事業開始であるため、調査事点までの5ヶ月間、A-Oが44年3月からの事業開始であるため、調査事点までの9ヶ月間であるが、その外は、43年一年間の状況である。またY-HとO-Sは、片手間に営業しているにすぎないため、営業期間が短かく、利用者も少なく、H-Mも営業方針で12月~2月までは、休業している。利用者の最も多いのはT-Hであり、年間46200人でその半数近くの人が食事をしている。次いで多いのがS-Nであり、釣堀利用19460人、食事利用16680人であり、料理を営業の重点としているため、食事利用者の中には、釣客でない人も多い。また最近営業開始したY-Hが5ヶ月間で6200人(食事利用6200人)、A-Oが9ヶ月間で7378人(食事利用5460人)と多数が利用しており、年間通じると、かなりの利用者がある。44年度事業開始したY-H、A-O、年間通じて営業していないH-M、A-Yを除いて、月別利用比率を平均でみると、8月が最も利用率が高く釣堀16.6%、食事14.8%、次いで7月の釣堀11.2%、食事11.4%、5月の釣堀12.6%、食事9.4%であり、夏休みの8月、7月、次いでゴールデンウィークのある5月に利用者は多い。行楽の秋も利用者が多いが、10月をピークと

表 24 釣 堀 利 用 状 況

年次	利用者の数	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
1 A-O	釣堀	140	(25)	60	(15)	200	(50)	400	(100)	600	(150)	300	(75)	500	(125)	700	(175)	350	(88)	450	(112)	200	(50)	100	(25)	4000	(100)
2 Y-H	釣堀	1000	(21)	850	(18)	2200	(47)	5200	(112)	5200	(112)	5200	(112)	5200	(112)	4800	(108)	5200	(112)	5200	(112)	5200	(112)	1000	(21)	4250	(100)
3 Y-H	釣堀	490	(21)	420	(18)	110	(47)	2000	(112)	2000	(112)	2600	(112)	2600	(112)	3290	(109)	2500	(112)	2400	(112)	2400	(112)	490	(21)	2800	(100)
4 Y-H	釣堀													0200	(143)	(1000)	(242)	1000	(141)	(1300)	(211)	(1300)	(183)	調査終了まで			(100)
5 Y-S	釣堀	50	(50)	50	(50)	55	(55)	100	(100)	120	(120)	130	(130)	140	(140)	140	(140)	80	(80)	50	(50)	50	(50)	50	(50)	1000	(100)
6 A-N	釣堀	30	(13)	20	(08)	100	(42)	250	(24)	400	(47)	390	(186)	350	(146)	450	(216)	350	(150)	200	(83)	300	(12)	50	(21)	2400	(100)
7 H-M	釣堀					93	(50)	111	(60)	370	(200)	185	(100)	278	(150)	462	(250)	111	(60)	185	(100)	55	(30)			1800	(100)
8 A-Y	釣堀					50	(50)	60	(60)	200	(200)	100	(100)	150	(150)	250	(250)	50	(50)	100	(100)	80	(80)			1000	(100)
9 A-Y	釣堀							397	(300)	682	(500)	265	(200)													1330	(100)
10 A-Y	釣堀																							調査終了まで			(100)
平均	釣堀	540	(29)	420	(23)	910	(47)	1120	(57)	1670	(75)	2240	(115)	2940	(151)	3640	(187)	1470	(75)	1750	(88)	1120	(58)	1820	(94)	18400	(100)
比率	釣堀	480	(29)	380	(21)	780	(47)	940	(57)	1340	(75)	1920	(115)	2520	(136)	3120	(165)	2540	(136)	3500	(180)	280	(14)	1500	(74)	16000	(100)
平均	釣堀																										(100)
比率	釣堀																										(100)

平均比率は、44年度に事業開始したY-H、A-O、年間通じて営業していないH-M、A-Yを除いてある。

して、冬に向つて下降し、2月が最も利用者が少ない。

利用者1人当りの釣堀関係消費額は、1000円から800円で、平均(1年間営業していないY-HとH-Mを除く)475円であり、中でもニジマス釣を主業とする経営体は、500~800円と、額が多い。食事関係の1人当りの消費額は、最近営業したが、一応、川魚の割烹を看板にしているため、1500円と額が多く、反対に新しいA-Oが軽食を主眼にしているため、118円と少ない。一応年間営業していないY-HとA-Oを除いて平均すると、1人当たり415円となる。

表 25 一人当り消費金額

経営体名 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
	K-O	T-H	Y-H	Y-S	A-N	A-Y	H-M	A-Y	A-O	S-N	
1人当り 釣堀消費	円 355	円 800	円 (200)	円 500	円 100	円 246	円 800	円 500	円 (427)	円 500	円 475
1人当り 食事消費		347	(1500)				300		(118)	600	415

平均値は、年間営業していないY-HとA-Oは除外してある。

収 入

年間の収入の一番多いのは、T-Hの55000千円で、続いて、S-Nの20016千円、A-Yの17973千円、O-Oの16250千円で、その外は、10000千円以下である。一番収入の多いT-H及び2番目のS-Nは、釣堀業が主業であり、次いでA-Yは、活魚輸送、O-Oは養鰻業を主業としてしている。年間経営をしていないY-HとA-Oを除いた10経営体の収入比率の平均をみると、養魚収入60.1%、釣堀関係26.4%、調理関係8.6%、その他4.9%と、釣堀関係収入が、かなりの部分を占めている。

表 26 収入状況

経営体 項目	養魚収入	釣堀 関係収入	調理収入	その他	計
1 K-O	610千円	1420千円	千円	700千円	2730千円
	22.4%	52.0%	%	25.6%	100.0%
2 T-H	(8000千円)	(37000千円)	(800千円)	(2000千円)	(55000千円)
	(14.5%)	(67.3%)	(1.4%)	(3.7%)	(100.0%)
3 Y-H	1240千円	5480千円	930千円	100千円	7750千円
	16.0%	70.7%	12.0%	1.3%	100.0%
4 O-S	4370千円	10千円	千円	千円	4380千円
	93.8%	0.2%	%	%	100.0%
5 O-H	5400千円	千円	千円	千円	5400千円
	100%	%	%	%	100.0%
6 O-O	16250千円	千円	千円	千円	16250千円
	100%	%	%	%	100.0%
7 Y-S	2457千円	350千円	千円	千円	2807千円
	87.5%	12.5%	%	%	100.0%
8 A-N	787千円	738千円	千円	千円	1525千円
	51.6%	48.4%	%	%	100.0%
9 H-M	千円	1500千円	300千円	450千円	2250千円
	%	66.7%	13.3%	20.0%	100.0%
10 A-Y	17297千円	662千円	千円	14千円	17973千円
	96.2%	3.7%	%	0.1%	100.0%
11 A-O	千円	(3154千円)	(647千円)	(1410千円)	(5211千円)
	%	(60.5%)	(12.4%)	(27.1%)	(100.0%)
12 S-N	5842千円	2498千円	11676千円	千円	20016千円
	29.2%	12.5%	58.3%	%	100.0%
平均	千円	千円	千円	千円	千円
	60.1%	26.4%	8.6%	4.9%	100.0%

平均はY-H、A-Oは除外している。

支 出

支出状況については、表27のとおりである。魚類の購入費が、平均して多く、全体の57.8%、次いで餌料購入費が13.3%、次いで人件費が11.0%である。最も魚類購入費を多く支出しているのは、T-Hで25000千円、全支出の57.0%であり、最も比率の高いのは、A-Yの87.2%で18970千円である。

餌料購入費をみると、金額では、養鰻業の〇－〇と〇－Ⅱが、各々2180千円、2140千円と比類がなく、比率では、〇－Ⅱ52.7%が最も高い。人件費は、〇－〇が2160千円、次いでA－Ⅲが1740千円と類は多い。比率では、Ⅲ－Sが43.2%と、とびぬけている。養魚関係の消耗品費並びに備品購入費は、平均して5%台であり、その外の支出はさらに低い。

表 27 支 出 状 况

項目	人件費	燃料費	電料費	水料費	油料費	その他(代価等)	計
1 Y-O	134.00	81.00	8.00	65.00	12.00	5.00	169.00
	7.00	4.00	0.50	8.00	7.00	0.00	10.00
2 Y-H	250.00	0.00	8.00	8.00	150.00	32.00	288.00
	5.00	0.00	2.00	0.20	7.40	0.70	8.00
3 Y-H	(84.10)	(14.30)	不明	不明	不明	不明	不明
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
4 O-S	224.70	56.00	1.00	113.00	10.00	18.00	321.00
	7.00	17.00	0.00	8.00	8.00	0.00	18.00
5 O-H	60.00	21.00	60.00	15.00	35.00	22.00	40.00
	1.00	5.20	1.80	8.70	8.00	0.00	10.00
6 O-U	56.80	218.00	216.00	20.00	1.00	16.20	484.00
	5.80	14.70	14.00	14.00	0.00	1.00	18.00
7 Y-S	58.80	5.00	55.00	51.00	0.00	3.00	127.00
	47.80	8.00	43.20	40.00	0.00	1.70	100.00
8 Y-N	59.40	5.20	1.00	32.00	1.00	3.20	85.00
	6.80	8.20	0.00	16.50	3.70	0.00	27.00
9 H-M	54.50	5.90	24.00	30.00	1.20	4.30	193.00
	24.50	24.90	12.40	15.50	0.00	2.00	100.00
10 A-A	134.70	5.00	174.00	1.00	5.70	1.00	160.00
	8.20	0.30	10.00	0.20	0.40	0.00	17.00
11 A-U	(42.50)	(16.80)	(13.50)	(22.20)	(40.00)	(33.80)	(10.00)
	(5.40)	(2.30)	(1.80)	(8.10)	(5.30)	(4.00)	(0.00)
12 S-N	572.50	56.40	155.50	100.00	50.00	700.00	1,231.00
	65.10	4.20	11.50	0.70	0.40	5.20	88.00
Y-E	5.70	1.30	1.00	5.00	0.00	1.20	10.00

平均は Y-H、A-O は除外

收支狀況

支出額が不明なＹ－Ⅰを
除く、１１経営体の収支状
況は、事業開始から１年間
たつていないＡ－Ⅰが赤字
である以外は、黒字が出て
いる。年間の収支状況は、
一応対象外のＹ－Ⅰ並びに
Ａ－Ⅰを除く、１０経営体
の平均でみると、収入１２
８３３千円、支出１０１１
７千円、粗利益２７１６千
円、平均粗利益率（加重平
均ではない）２８３％であ
る。粗利益は、１０００
千円以上１経営体、５０
０千円以上２経営体、１

表 28 収 支 状 況

項目 經營體名	収 入	支 出	粗 利 益	粗 利 益 率
1 K-O	2730円	1699円	1031円	378%
2 T-H	55000	43870	11130	202
3 Y-H	(7750)	不 明	不 明	—
4 O-S	4380	3210	1170	262
5 O-H	5400	4060	1340	332
6 O-O	16250	14840	1410	87
7 Y-S	2807	1273	1534	546
8 A-N	1525	850	675	442
9 H-M	2250	1933	317	141
10 A-Y	17973	16003	1970	110
11 A-O	(5211)	(7176)	(△1965)	(△377)
12 S-N	20016	13430	6586	329
平 均	12833	10117	2716	283

平均はY-H、A-Oは除外

00千円以上は8経営体もある。率でみると、Y-S並びにA-Nが54.6%、44.2%と高く、反対にO-Oは8.7%と、とびぬけて低い。

考

察

内水面養殖業は、内部的には種苗費の高騰（特にウナギ、アユ）、第2次産業に吸収される労働事情の中で、人件費の増額、餌料資材費の上昇、外部的には、環境が都市化された中での水の確保と、経営は問題が多い。しかし、この京浜の大消費地を身近にもつ、本県の業者は、経営の活路をみきわめていると思われる。一つは、観光内水面養殖業への体質改善であり、一つは、新たな流通市場の開拓である。今後本県淡水魚増殖場も、この様な質的転換をみきわめて指導に当る必要がある。